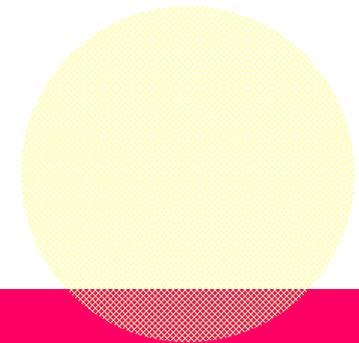




第5章
計画の推進に向けて



1. 地域連携の推進

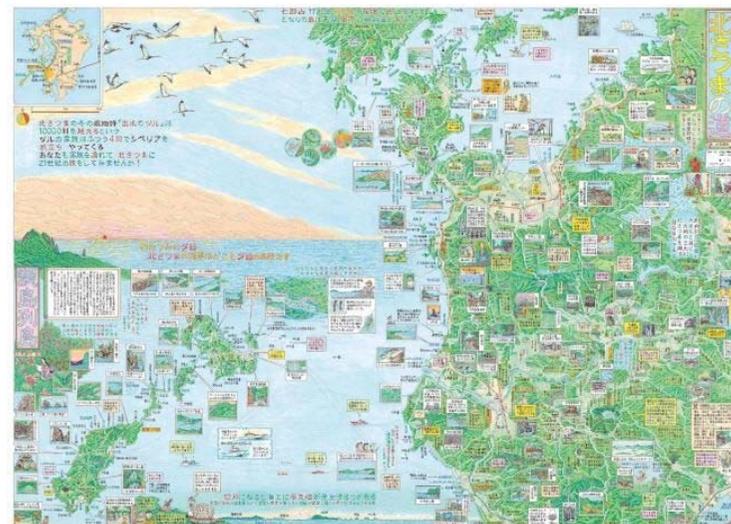
1) 広範囲での連携

◇阿久根市街地を広域観光ルートの拠点として位置づけるためには、周辺地域との連携が必要である。特に、北薩地域においては、北薩地域の民間団体及び行政の45団体からなる北薩摩振興推進協議会などによる北薩地域の観光や特産物などを示した「北さつまの道」や「北薩摩交通アクセスマップ」、「北薩摩グルメマップ・北薩摩農林水産物マップ」の作成や、観光イベントの開催、大都市部への観光PRが継続的に展開され、広範囲での連携が進められているところである。これらの一連の観光ルートの拠点地域として、阿久根地域の振興と連携を強めていく必要がある。

◇また、阿久根中心部を通ったとされる「薩摩街道」は、鹿児島県と熊本の薩摩街道歴史ふれあいウォーク実行委員会が主体となり、北薩地域と水俣・芦北地域における街道のルート、史実、見所などを満載した携帯用「薩摩街道散策マップ」を作成、イベントの開催を行っており、こうした県や地域をまたがった地域交流の連携や協力を進め、阿久根地域からも情報発信や施設提供を進めていく必要がある。

◇最近では、海外からの観光客も訪れており、周辺の観光地や肥薩おれんじ鉄道の観光列車との連携により、観光客の増加が見込める。国を代表するような観光資源や大規模なリゾート施設がないかわりに、広範囲での連携を強めることにより、グリーン/ブルーツーリズムや、カルチャーツーリズム、ヘルスツーリズム（第3章 3項参照）など、その地域独特の気候や風土の中で育まれた生活文化や交流、体験の魅力の相乗効果を発揮させていくことが可能である。

◇そのためには、北薩地域で海外旅行者のニーズにも対応できる観光的魅力の向上と質の高いサービス及び人材育成、観光窓口、PRの連携、交通環境の向上などを今後も継続的に発展させ、広域地域での交流を深めていくことが必要である。



絵地図「北さつまの道」 鹿児島県・北薩摩振興推進協議会



北薩摩グルメマップ



北薩摩交通アクセスマップ
北薩摩振興推進協議会



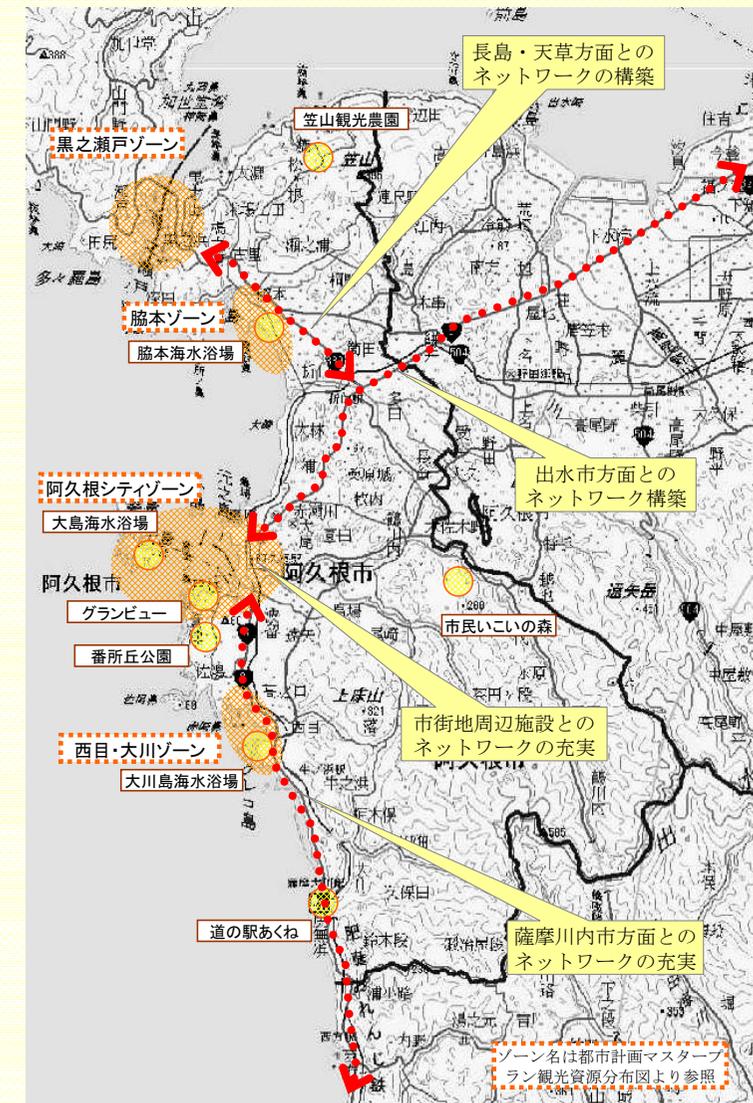
薩摩街道さんさくマップ 薩摩街道歴史ふれあいウォーク鹿児島県実行委員会

2) 近隣地域との連携

◇阿久根市街地周辺には、様々な魅力ある観光資源やアクティビティをもった場所がある。しかしながら、各施設とのネットワークが不十分であり、再生整備に伴い、既存ルートを活用を図りながら、有機的な連携を強化したネットワークの構築を図っていく必要がある。

◇市街地近隣の観光資源ゾーンや、都市公園や観光施設、道の駅とのネットワークの構築を進めると共に、長島町や出水市、薩摩川内市との結びつきを強化し、各方面の観光施設との連携を図る。

ネットワーク	方向性
阿久根市街地近隣のネットワーク	<p>阿久根大島への渡航の利便性の向上や体験イベントなどを通じて阿久根大島への通年利用促進を図り、阿久根観光交流のシンボルとしてのネットワーク促進を検討する。</p> <p>グランビューや番所丘公園など眺望と自然豊かな観光施設へのアプローチの景観や情報施設の充実を図り、市街地を巡るネットワークの多様化の推進を検討する。</p> <p>道の駅あくねと市街地のイベントが連動した観光情報の充実と、ルートの景観や休憩スポットの整備を図ることによって、通過交通の市街地への誘導の促進を検討する。</p>
薩摩川内市方面とのネットワーク	<p>薩摩川内市-出水市方面の観光ルートにおいて、阿久根を中間的な交流拠点として位置づけ、休憩から滞在を含めた観光メニューの検討や、観光ルートの誘導のための情報交流の促進を検討する。</p>
長島・天草方面とのネットワーク	<p>鹿児島随一の豊かな海資源を活かした海の観光ルートとして、長島の観光施策との連携を図ると共に、阿久根独自の観光施策をPRすることによって、長島-阿久根の観光ルートの充実を検討する。</p>
出水市方面とのネットワーク	<p>薩摩川内市-出水市方面の観光ルートにおいて、阿久根を中間的な交流拠点として位置づけ、休憩から滞在を含めた観光メニューの検討や、観光ルートの誘導のための情報交流の促進を検討する。</p>
林間レクリエーション拠点とのネットワーク	<p>林間レクリエーション需要の高まりを踏まえ、農産物や観光農園などの観光施設に光をあてたネットワークの充実を検討する。</p>



【阿久根市街地周辺とのネットワーク構築の方向性】

3) ソフトプロジェクトとの連携

◇本計画では、＜第4章の展開Ⅲ＞において、現在継続的に行なっている阿久根のまちづくりや食のイベント活動を、「にぎわい創出」を牽引するリーディングプロジェクトとして集中的に展開し、ハード・ソフトが連動したまちづくりを段階的に推進するソフトプロジェクトの連携を示した。

◇こうしたソフトプロジェクトは、再生整備プロジェクトが進み、活性化が始まるまでに賑わいをもたらす重要な要素であり、民間活力や地域協働プロジェクトにより多様な観光ニーズに対応するとともに、地域産業の育成とPRを継続的に推進し、その活動の場の受け皿となる施設の整備を進めていくことが重要である。

以下に、ソフトプロジェクトの連携及び推進について留意点などを整理する。

【ソフトプロジェクトの展開における留意点】

■今後の施設再生整備にあたっては、リーディングプロジェクトなどのソフトプロジェクトの発展や進ちょく及びニーズと連携しながら推進し、綿密に情報交換、連携を図り、場合によっては、施設内容や整備年度を見直すなど、状況に応じた効果的な整備展開を図る。

■ソフトプロジェクトの実施により、人材育成やサービスの向上を図ると共に、ソフトプロジェクトの相乗効果や、組織連携を高めて多様な魅力を発信し、集客効果を高める。

■四季を通じた継続的な受け入れ体制やイベントの開催など、ソフトプロジェクトの柔軟な対応を展開していくことにより、効果的な施設運営や、多様な観光ニーズへの対応を継続的に図っていく。

■地元団体やNPO、民間事業者の主体的な活動や関わりの促進を図るため、行政の役割として、組織間の情報連携や調整、PRなどのサポートを図りながら、組織とイベントと人材の育成に努める。

4) 市民交流センター（仮称）との連携

◇現在、建設が計画されている市民交流センター（仮称）において、芸術・文化活動に加え、子供からお年寄りまでの多くの市民が集い、様々な人々が触れ合う機能を持つ交流拠点となるような施設づくりが検討されている。

◇今後、市民交流センター（仮称）の施設の建設と運営に伴い、市民が学び、交流することにより、まちのにぎわいを創出し、地域の魅力を高める「まちづくり」の核となる発展が期待できる。

◇そのため、本計画では、＜第4章の展開Ⅱ＞において、重要拠点として位置づけ、回遊ルートの結びつきや、周辺の景観形成の展開を示した。

◇今後の阿久根のまちづくりにおいては、「阿久根駅周辺」と「旧港周辺」と同じく、「市民交流センター（仮称）」施設も、重要なまちづくり拠点として役割を果たすとともに、3つの拠点が連携して、阿久根の活性化の取組を進めていくことが重要である。

2. 誘客・情報発信の促進

1) ターゲット別の誘客・情報発信の展開

◇本計画では、サインやしきかけなどの情報提示のハード整備の提案を行ったが、観光や交流情報の提供手段（メディア）においては、こうしたハード整備の他に、地図やパンフレット、パソコンや携帯電話、観光案内所や観光ガイドなど多岐に渡る。特にそれぞれのメディアにおいては、得意とするPR内容や手法が異なるため、対象に対して適材適所で使い分け、相互に補完できる誘客・情報発信を展開していく必要がある。

【主要なメディアの長所・短所】

種類	長所	短所
案内標識（サイン）	・誰もがいつでも現地地情報で入手することができる	・情報量が限定される ・景観への配慮が必要である
地図（手持ちマップ）	・携帯性に優れている	・リアルタイムに情報更新ができない。 ・観光案内所など入手可能な場所に限られる
ガイドブック	・観光客のニーズの高い情報を掲載し、個別の観光資源などについて詳細な解説情報が得られる	・リアルタイムに情報更新ができない ・コストがかかる
パンフレット	・個別の観光資源などについて詳細な解説情報が得られる	・リアルタイムに情報更新ができない。 ・観光案内所など入手可能な場所に限られる
パソコン	・事前に欲しい情報を自由に選択し入手することができる	・情報を入手できる環境が限定される
携帯情報端末	・携帯性に優れ、いつでも場所を選ばず自由に情報を選び、入手することができる	・情報量が限定される ・現状では利用できる人が限定されている
観光案内所	・外国人、高齢者、身体障害者に対しても詳細な案内ができる ・多くの情報を入手できる	・営業時間が限定される ・設置するためのスペースが必要となる
観光ガイド	・場所ごとに適切な案内を受けることができる	・利用可能な観光地が限定される ・営業時間が限定される

格好地のためのひと目でわかる案内標識計画・設置・管理マニュアル(ぎょうせい)

【ターゲット別の誘客・PR方法】

地域	ターゲット	PR方法
県内・近隣地域	小学生	学校・教育委員会へのDMなど
	子連れヤングファミリー	新聞、テレビ、（ヤング向け）タウン誌、インターネットなど
	中高年グループ	新聞、テレビ、（中高年向け）タウン誌、インターネットなど
全国	熟年夫婦	テレビ（旅番組、ドラマなど）、レジャー、旅行誌、映画ロケ、著名人の登用、鉄道・航空会社、趣味の雑誌など
	中高年グループ	
	趣味客（温泉、登山など）	
海外	東アジア団体旅行客	海外旅行会社、日本政府観光局（JNTO）など
	東アジア、欧米などの個人	外国語ホームページ、日本政府観光局（JNTO）など

■地域のロコミ展開

◇本計画のビジョンとして、まちの魅力とまちの楽しみ方を、地域の人々自らが気づき、体験し、活動することで、地域の外の人たちを引き寄せ、「にぎわい」につなげるまちづくりを進めるとしている。

◇阿久根でのイベントや交流、食のPRにおいても、地域の公式サイトによるPRだけでなく、地域の人たちがPR員の一人として、インターネットのSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）や動画サイトへの投稿等を通じて、地域の魅力を様々な形でPRを行う地域の「ロコミ」をまちづくり運動として推進する。

◇こうした地域一人ひとりが、阿久根の魅力を表現し、盛り上げていくことが、今後の阿久根の大きな情報発信のツールとなる。

2) シーズナリティ（季節の魅力）戦略

◇阿久根市の観光資源は、海水浴などに代表されるマリンレジャーと、海産物などに代表される海の観光資源を持つ。そのため、主要な観光シーズンは、海開きからの夏シーズンとなっているが、今後、年間を通じて、多くのにぎわいと交流人口を増加させるため、シーズナリティ（季節の魅力）戦略が重要となる。

◇また、現在取り組んでいる食のイベント（うに井祭り、伊勢えび祭り、きびすき、新鮮朝市、新鮮おさかな祭り等）による交流人口が増加していることから、旬の食のイベントとの結びつきにより阿久根の魅力を発信していく必要がある。

◇以下に、本再生整備基本計画の施設計画とリーディングプロジェクトと組み合わせた阿久根のシーズナリティの展開方針を検討する。

【シーズナリティの展開方針】

特に観光客が多い夏場と、にぎわいが少なくなる冬場の展開方針を示す。

（夏場の展開方針）

- 夏場は阿久根大島を代表する多彩で魅力的な海水浴やマリンレジャーの体験レクリエーションなどを前面に展開し、集客を図る。
- また、屋外レクリエーションにあわせ、パーベキューによる地産食材の提供を推進し、地元農水産物のPRや肥薩おれんじ鉄道などとの連携を強化する。
- また、通過交通に向けて、海岸線と沿道修景により、阿久根観光の彩りやホスピタリティを強化する。

（冬場の展開方針）

- 夏場に比べて屋外レクリエーションのメニューは少なくなるが、阿久根には「えびす祭」や各種の市（いち）の開催など、地域文化に密着した祭礼や行事が多くなる。そこで、こうした地域文化を全面的に展開し、冬場での集客を図る。
- また、冬場でも阿久根の魅力的な食や食文化をPRし、夏場のパーベキュー宣言に対する冬場の「鍋もの」などの食のレクリエーションのPRを推進するとともに、市（いち）を通じて、人と人との交流を温める「温かなふれあいの観光プログラム」の充実を図る。
- また、阿久根温泉や、周辺地域の温泉施設と連携して情報発信やサービスの向上を図り、温泉と健康と食が一体となった質の高い観光資源の提供に努めていく。

【阿久根の年間行事】

名称	時期	開催場所	主催者・事務局
えびす祭	1月10日	築港地区公民館等	漁業・観光関係者
市の市（旧人形市）	3月第4日曜日	本町通り	本町通り会
九州運輸高等学校駅伝競走大会	3月第2日曜日	総合運動公園ほか	阿久根市（市教委生涯学習課）
金比羅祭り（旧3月10日祭り）	旧暦3月10日	市金城	商業関係者・市観光連盟
ひな女祭り	旧暦4月8日	佐湯地区	佐湯地区民
うに井祭り	3月下旬～5月上旬	市向楽場	阿久根市観光連盟
阿久根・花・HANA・華まつり	5月	3商店街通り（駅前・本町・大島）	阿久根農工会議所
海開き	7月第1土曜日	市内5海水浴場	日本水泳協会 市観光連盟
海の干か～いん（海水浴祭）	海の日の月夜（8月第1日）	阿久根大島～五色原	阿久根市（市教委生涯学習課）
神舞	旧暦7月23日（土曜日）	市立神社	市民会
みじこ祭り	7月下旬～8月上旬	市立海浜	市観光連盟
新鮮おさかな祭り	8月中旬	産直市場	阿久根市水産研究会
新鮮朝市	8月5日～10月第1日	阿久根市水産	市観光連盟
伊勢えび祭り	9月上旬～10月下旬	市内飲食店	阿久根市観光連盟
華のSO盛装	10月第1日曜日	市内各小学校運動会場	市内の小学校を卒業した50歳前後者
阿久根市 あひま祭 ロードレース大会	11月第2日曜日	本町通り	本町通り会
産業祭のまつり（水産祭）	12月第2日曜日	総合運動公園ほか	市観光連盟 市教委生涯学習課
冬祭りまつり	12月第2日曜日	総合運動公園内ほか	阿久根市観光連盟
阿久根市 おとこ祭り	12月25日	本町通り	本町通り会
きびすき	毎年	市内飲食店	阿久根市観光連盟

	冬場の行事
	夏場の行事
	食の行事

【観光施設などの推計利用者数】

区分	年	平成21年	平成22年	平成23年	
三海水浴場合計	周年	35,798	43,001	44,201	
	夏場	25,643	33,073	34,016	
	大島海水浴場	周年	16,033	16,398	14,888
	（夏場以外推計値）	夏場	12,878	13,470	11,703
	馬本海水浴場	周年	14,339	21,002	25,319
（夏場以外推計値）	夏場	9,339	16,002	20,319	
大川島海水浴場	周年	5,426	5,601	3,994	
（夏場以外推計値）	夏場	3,426	3,601	1,994	
宿泊施設 （ホテル・旅館・キャンプ施設）	周年	39,872	46,229	33,436	
	夏場	8,666	12,226	8,380	
番所丘公園	周年	21,031	19,174	24,960	
	夏場	2,726	2,905	3,377	
道の駅あくね	周年	112,459	108,176	102,367	
	夏場	19,113	18,675	17,660	
温泉 （楽屋・グランビュ ・クアドーム）	周年	194,792	189,170	186,107	
	夏場	32,664	29,309	27,908	
釣り客（磯・船） （推計値）	周年	36,000	36,000	36,000	
	夏場	12,500	12,500	12,500	
合計	周年	439,952	441,750	427,071	
	夏場	101,312	108,688	103,841	

※期間中（夏場）は7月1日～8月31日の掲載分

資料：国土観光課

3. 再生整備基本計画の推進体制

◇ 「地域の宝を育て、人の絆でまちを楽しむ」ことを再生整備基本計画の目標として本計画の策定を行った。今後のまちづくりを行う主役は、これまで阿久根市が培ってきた文化や交流であり、それを支えてきた市民や団体である。

◇今後、阿久根に「行ってみたい」、「また来てみたい」、そして「住んでみたい」と感じられるよう、行政や事業者、市民が共通認識を持って、協働によるまちづくりを推進していく必要がある。

1) 市民・NPOの役割

◇まちづくりは市民一人ひとりが主役となって、阿久根の自然や文化、歴史などの地域資源に対する認識を高め、地域への愛着や誇りを持ちながら活動し、自助、共助による地域の担い手になることが求められる。

◇また、にぎわいの創出においても、「地域の人とのふれあい」や「地元からのロコミ」などのコミュニティ要素が重要になっており、市民やNPOの活発な活動がより大切になっている。

2) 民間事業者・関係団体の役割

◇民間事業者や関係団体の専門的な技術や、資材、人材、そしてこれまでの経験は、阿久根のかけがえのない資源であり、今後のまちづくりにおいても、交流や情報発信の主体となる役割を担っている。

◇きめ細やかな観光のニーズの把握やサービスの提供を図るため、今後も産業間の連携・協力を図りながら、特産品の提供や、イベントの開催、受け入れ体制の構築に努め、施設やまちづくりの運営に積極的に関わっていくことが求められる。



3) 行政の役割

◇行政の役割として、今後のまちづくりについての骨格となる計画を作成し、各施策の方向性や目標を地域に示していく必要がある。

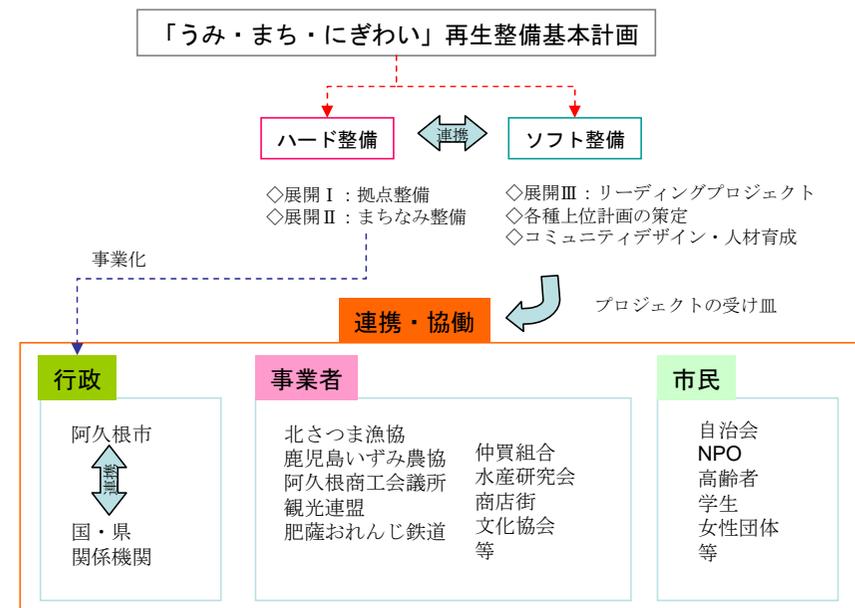
◇特に、阿久根の将来像の骨格を示す「都市計画マスタープラン」の策定及び用途地区の変更や、阿久根の観光体制を確立するための「観光計画（サイン・照明ガイドライン）」、地域コミュニティの推進のためのアクションプランなどを提示し、阿久根の将来ビジョンを明確に示していく必要がある。

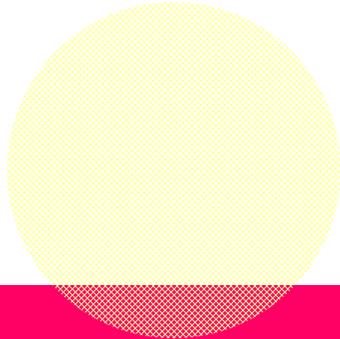
◇また、各主体が一体となってまちづくりに係わる環境づくりを構築するため、まちづくりの推進協議会の設立や、ルールづくりに積極的に取り組み、まちづくりへの共通認識を深め、機運を高めていくことが必要である。

◇また、行政の役割として、事業者や地域住民、NPO団体などの連携・協力体制の構築や、情報の共有、功労者への表彰など、協働によるまちづくりを深化させるための地盤づくりを推進することが求められる。

◇また、国や県内外との広域的な連携やその調整を図り、広域地域でのネットワークの形成とその支援を図る。

【再生整備基本計画の実施体制（案）】

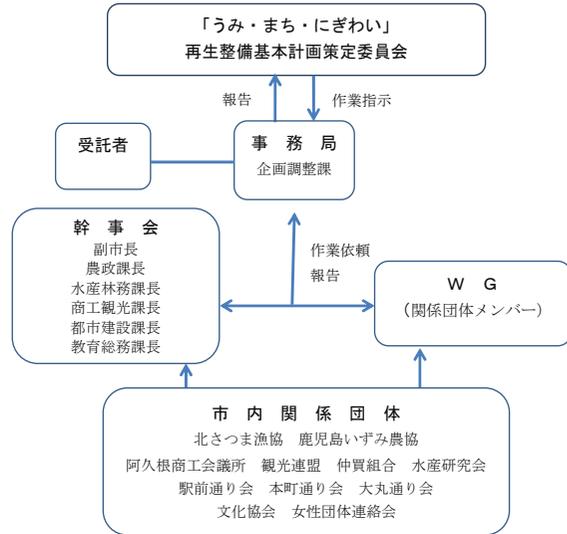




—阿久根市「うみ まち にぎわい」再生整備基本計画—
【 参考資料 】

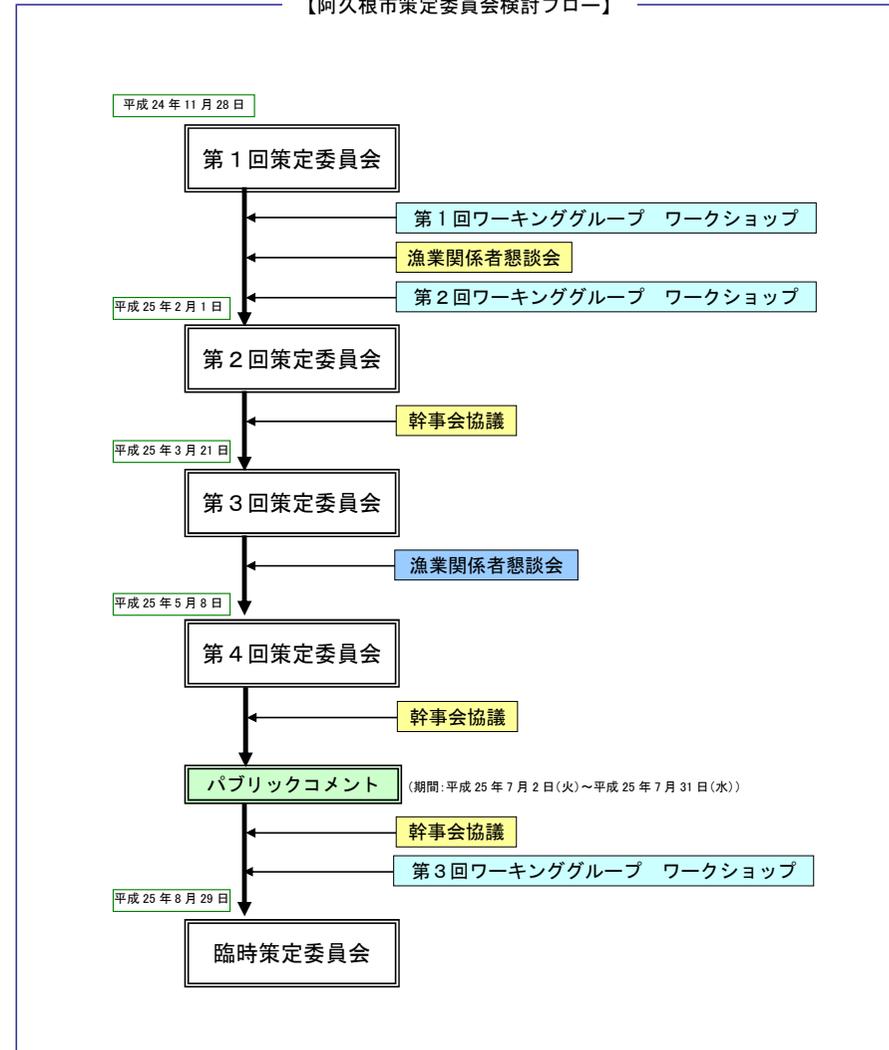
参考資料：委員会等経緯

【「うみ・まち・にぎわい」再生整備基本計画策定業務組織図】



区分	職名	氏名
学識経験を有する者	鹿児島大学大学院教授	木方 十根
各種団体の代表者	阿久根商工会議所会頭	西 勘三郎
	北さつま漁業協同組合 代理理事組合長	砂畑 奉作 野村 義也 (平成25年7月29日より就任)
	鹿児島いずみ農業協同組合 阿久根事業所長	久保 秀幸
	阿久根市観光連盟「阿久根まちの駅」 理事長 (旧阿久根市特産品協会会長)	安田 暢子
	阿久根市観光連盟「阿久根まちの駅」 理事 (旧阿久根市観光協会会長)	岩崎 益男
	阿久根市文化協会副会長	遠矢 敏行
その他市長が必要と認める者	阿久根市女性団体連絡会会長	松木 より子
	肥薩おれんじ鉄道株式会社 代表取締役社長	古木 圭介
	鹿児島県北薩地域振興局 総務企画部長	庭月野 慎一 谷川 靖夫 (平成25年4月1日より就任)
	鹿児島県北薩地域振興局 建設部長	松永 洋文 九万田 伸一 (平成25年4月1日より就任)
阿久根市長	阿久根市長	池田 賢一 農林水産部長
		西平 良将

【阿久根市策定委員会検討フロー】



参考資料:

第1回 ワーキンググループによるまちづくりワークショップレポート

「うみ・まち・にぎわい」再生整備基本計画を推進するための「第1回ワーキンググループ(WG)によるまちづくりワークショップ」が開催されました。策定委員会から出されたテーマについて、ワークショップを通して様々な意見交換がなされました。

1 ■ワークショップの概要(第1回)

日時 : 平成24年12月19日(水) 16:30~18:30
会場 : 阿久根市 大会議室
参加者: 11名(2名欠席)

2 ■当日のスケジュール

- ◆事業説明とWGの役割説明
- ◆ワークショップ説明
- ◆アイスブレイキング「阿久根マイマップづくり」
- ◆ワークショップ「ワールドカフェ」
 1. 阿久根駅周辺を考える
 2. 旧港周辺エリアを考える
 3. 市民会館(仮称)と街歩きを考える
- ◆成果発表
- ◆総評と宿題



3 ■事業説明とWGの役割説明

阿久根市企画調整課の花木課長からの挨拶により、ワーキンググループのワークショップが開始されました。事業説明では、前もって渡してある「阿久根駅周辺整備計画」を踏まえ、再生整備基本計画の位置づけや、ワーキング・グループの役割の説明がありました。次に、ワークショップのコーディネーターからスタッフの紹介があり、ワークショップの内容や話し合いのルールについて説明が行われました。

4 ■アイスブレイキング「阿久根マイマップづくり」

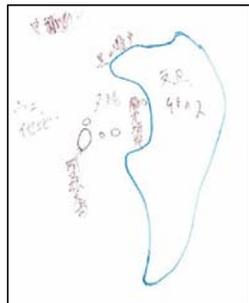
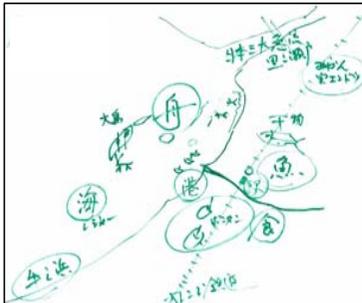
11名のWGメンバーにA、B、Cの3班に分かれてもらい、コミュニケーションを促進させ会話を盛り上げるためのアイスブレイキング・プログラムを行いました。

まず、A3用紙に、それぞれ自分の記憶だけで阿久根市の輪郭<白地図>を描いてもらい、そのあと、阿久根市の特徴やPRポイントを書いて、班の中で紹介しました。そして班の中で最もマップと説明がうまかった人を互選してリーダーになってもらいました。

いつも見慣れている阿久根の地図ですが、なかなか短時間に正確に書くのは難しかったようです。そのかわり、阿久根マイマップの中には、ボンタンや魚、タケノコなどの特産の他、海岸線やおれんじ鉄道など、様々な阿久根の姿が描かれました。



阿久根マイマップづくり



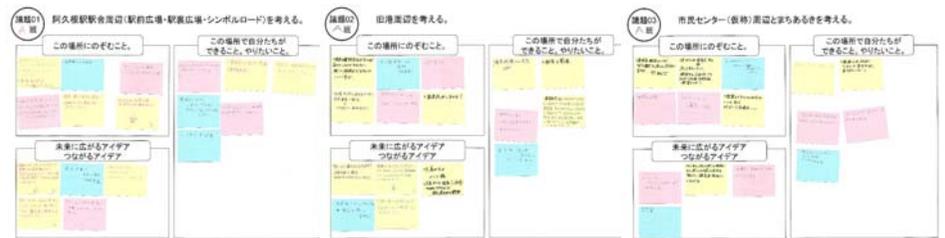
5 ■ワークショップ「ワールド・カフェ」

ワールド・カフェでは、策定委員会より検討指示のあった「主要施設についての具体的なアイデア」への議題について話し合いを行いました。

- ・議題①「阿久根駅周辺を考える」
- ・議題②「旧港周辺を考える」
- ・議題③「市民会館と街歩きを考える」

1つのテーマについて、話し合う時間は10分間。議論の前には、それぞれの事業について事務局から説明を行い、また技術的な立場からコンサルタントから説明がありました。

議論は、先のアイスブレイキングでリーダーとなったメンバーがカフェのマスターに扮して、班の意見を盛り上げていきます。メンバーの意見は、A1模造紙に書かれている「この場所に望むこと」「未来に広がるアイデア、つながるアイデア」「この場所で自分たちができること、やりたいこと。」の3つのカテゴリごとに、ポストイットのメモ用紙に具体的に書いて、貼り付けていきました。



ワークショップの様子



事務局の事業説明



班の発表の様子

6 ■成果発表

議題②の「旧港周辺を考える」のワールド・カフェの事業説明の後、メンバーから、旧港エリアの計画に対し財源や意向の確認がされないままに計画が進んでいることに不安の声が出されました。この意見は策定委員会でも出た意見でもあり、そうした声を策定委員会やこのWGでも取り上げていくことを説明・共有しました。

そして、ワールド・カフェの最後には、3つの議題について、A、B、Cの3班ごとに成果の発表を行い、出されたアイデアの共有を行いました。

7 ■総括・まとめ

WGメンバーが初めて集まった最初のワークショップでしたが、時間通りに終了することができました。短い時間に集中しての議論でしたが、出し足りない意見については、ワールド・カフェで使用した用紙を渡して、次回に記載していただくことになりました。また、次回のワークショップをスムーズに進行するため、宿題として次回のテーマとなる「阿久根のまちづくりの目標」や「まちをむすぶアイデア」などを考えてきてもらうことを説明し、ワークショップを終了しました。



参考資料:

第2回 ワーキンググループによるまちづくりワークショップレポート

年が明けて「第2回ワーキンググループ(WG)によるまちづくりワークショップ」が開催されました。今回は、専門家のまちづくり授業を踏まえて、まちづくりへのアイデアと、まちづくりのテーマを考えました。

1 ■第2回ワークショップの概要

- 日時 : 平成25年1月15日(火) 16:00~18:00
- 会場 : 阿久根市 大会議室
- 参加者: 10名(3名欠席)
- オブザーバー:
 - ・鹿児島大学大学院 3名
 - ・鹿児島県商工労働水産部
 - ・北薩地域振興局総務企画課

2 ■当日のスケジュール

- ◆第1回WGの振り返り
- ◆専門家による「まちづくり授業」
 - ・阿久根の概要と旧港の様子
 - ・阿久根の交通計画
- ◆ワークショップ1「まちをつなげてみよう」
- ◆ワークショップ2-1「まちづくりのテーマをつくろう」
- ◆ワークショップ2-2「3つの拠点のテーマをつくろう」
- ◆成果発表



3 ■第1回WGの振り返り

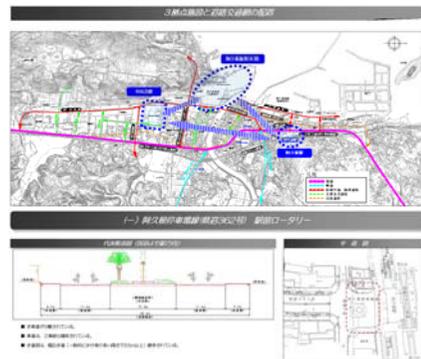
前回に行ったワークショップの内容を振り返り、その成果を「ワークショップレポート」で確認してもらいました。また、今回から鹿児島大学大学院の学生3名の参加があり、自己紹介をしてもらいました。コーディネーターから、改めてスタッフ紹介を行い、本日の作業内容の報告がありました。

4 ■専門家による「まちづくり授業」

新日本技術コンサルタントの西内氏と上田氏により、約40分間、データや現地調査から見た阿久根のまちについての解説が資料を交えて行われました。現在の阿久根市の人口、産業、観光客数などから阿久根市の情報の共有を図りました。上田氏からは、旧港の利用形態や施設状況について説明があり、旧港活用の課題が挙げられました。西内氏からは、阿久根市の交通計画の状況の説明があり、道路計画の特色や、駅前の管理区分などの課題などが報告されました。



旧港の利用計画と状況



計画地内の道路交通網と拠点の道路状況

5 ■ワークショップ1「まちをつなげてみよう」

策定委員会より検討指示のあった「交通計画」について、3つの拠点を含めた阿久根市の核をつなげるルートを検討しました。
計画範囲と3つの拠点エリアを示した都市計画図上に、3色の毛糸をつかって、ルートを考えていきます。**赤色はく車の動線**、**青色はく観光客の動線**、**黄色はく地域の人々の動線**で、まちなかをめぐって欲しい回遊ルートを考えてもらいました。
次に形成したルートを楽しむためのく仕掛けくや地域によるくおもてなしく等のアイデアや課題等をルート上に書き、まちをつなぐマップを作成しました。3班それぞれ特色のあるルートが作成され、多様な阿久根めぐりのアイデアを共有しました。



ワークショップの様子

6 ■ワークショップ2-1「まちづくりのテーマをつくろう」

wishポエムというプログラムを使って、この計画でどんなまちになってほしいかの目標(テーマ)をみんなで考えました。まずは下記の〇〇〇についてみんなの意見を書いてもらいました。
「阿久根のまちは〇〇〇だったらいいな」「でも現実には〇〇〇だ」「そこで阿久根のために私達のできることは〇〇〇だ」

最後に、みんなで話し合っ、キーワードをつなげて1つの文章にしてA3用紙にまとめてもらいました。

■ワークショップ2-2「3つの拠点のテーマをつくろう」

「まちづくりのテーマをつくろう」と同様に、3つの拠点「阿久根周辺エリア」「旧港エリア」「まちなか・市民交流センター」について、整備目標になるようなキャッチコピーを考えてもらい、1つの文章にまとめてもらいました。

阿久根のまちは

「魚料理が日本一で、温泉もあって、海と夕日の景観が綺麗で高齢者にやさしいまち」
「観光客に地元の食材や観光を楽しんでもらえて、医療面など高齢化社会の中で市民が安心して暮らせるまち」
「地域の人たちが明るい笑顔でにぎやかに生活しあえるまち」

だったらいいな

でも現実には

「店がわからないし、食材も生かしてないし、観光客向けの施設が少なく、これといったイメージがない」
「1年を通しての観光スポットがないことや、ドクターが少ないなど、市民にとっても優しくないまち」
「仕事がなく、若者が減り、活気が少ないまち」

です。

そこで阿久根のために私達ができることは、

「新しい料理や店をつくって、案内板をわかりやすくしたり、増やしたり、ゆるきゃらや特産品をつくる」
「1年を通してにぎやかなまち、回遊性のあるまちをつくる」
「新しいクラブ・サークルをつくり、市民がつながる橋渡しを行い、新しい文化、産業をつくる」

ことだ

阿久根駅周辺エリアのテーマ

- ◎観光客に阿久根の楽しみ方を提供する場所
- ◎観光交流の拠点として観光客を迎えるまち
- ◎観光案内所兼物産館を駅に設置する

旧港周辺エリアテーマ

- ◎過去と未来を共有できる空間
- ◎阿久根の体験型観光の中心
- ◎市民・観光客がぶらぶら散歩できる場所

まちなか・市民交流センターのテーマ

- ◎地元住民でにぎやか、いつでも誰でも手軽に使える施設
- ◎イベントを通して市民と観光客をつなげる文化の中心
- ◎市民に長年親しまれ活動がちな場所

7 ■成果発表

最後にワークショップの成果を学生から報告してもらい感想を発表してもらいました。阿久根に来たのは初めてという学生も、地域の人たちの生の声を聞いて、阿久根に関心をもってもらえたようでした。また、「地域の人たちの意見には地元に対して後ろ向きなイメージのコメントもあったので、もっと阿久根の良さを前向きに捉えてまちづくりに活かして欲しい」という意見も頂きました。